

生物多様性保全実習報告書

黒沢研究室修士1年 薄井創太

2017年9月13～15日にかけて、裏磐梯地域で生物多様性保全実習を実施しました。今年の実習は受講生10名、TA・SR4名、黒沢先生の計15人で行いました。実習では、湿生植物群落や水生植物群落での植生調査と、侵略的な外来植物の駆除活動を行いました。

植生調査は、秋元湖東岸で行いました。湿性植物群落の調査では、湿地帯に帯状コドラートを設置し、陸域から水域への植生の移り変わりを調べました。水生植物の調査では、フローターやボートを用いて水上から水生植物群落の組成を調べました。秋元湖では、キショウモやタチモなど、福島県で希少な植物を観察することができました（図1）。

外来種の駆除活動は、柳沼と曲沢沼で行いました。柳沼では主にキショウブやコカナダモ、外来ハッカ属といった裏磐梯地域で猛威を振るっている外来種の駆除を行いました。キショウブについては、例年の駆除活動の成果あってか、散歩道沿いから確認できる個体は減少してきました。

曲沢沼では、地元の方々とともにコカナダモの駆除活動を行いました。駆除には30名ほど参加しました。沼全体にコカナダモが広がっており（図2）、ボートやフローターを出し、熊手などでのコカナダモを引き上げました。例年行っている曲沢沼コカナダモ駆除ですが、ノウハウが蓄積されて年々駆除の効率が上がってきました。また、一昨年から今まで見られなかった在来植物のオヒルムシロが見られるようになりました。しかし、池全体のコカナダモを駆除し尽くすには至らず、今後も継続した駆除活動を行っていく必要があると感じました。

裏磐梯地域での実習を通して、受講生たちは希少な植物が生育している環境と外来種が侵入して生態系が崩れた環境の両方を体験しました。



図1. 植生調査で見られた水生植物の観察の様子



図2. 上空からみた曲沢沼と水中に見えるコカナダモ